

花き栽培技術

スモークツリー（煙の木）

JA ありだ 辻 圭索

スモークツリーは、ヨーロッパからアジアにかけて分布するウルシ科ハグマノキ属の落葉樹です。日本へは明治時代に渡来し、見た目がユニークで印象的な花を咲かせ、寒さ暑さに強く生育も早いことから、枝物や庭のシンボルツリーとして人気があります。枝物としては、春の新芽、初夏の新緑、秋の紅葉などにも用いられます。

今回は、このスモークツリーの特徴や育て方について紹介します。

1 特徴

スモークツリーは、英名を「smoke tree」、和名を「煙の木」と言うように、煙をイメージした名前の樹木です。スモークツリーは雌雄異株で、初夏の花期になると、枝先に小さな花を穂状にたくさん咲かせます。

雌木では、花後タネを結ばない不稔花の軸部分が長く伸びて羽毛のようになり、花穂がもこもことした感じになります。雄木は花穂がもこもこになりません。切り枝やシンボルツリーで栽培されているのは、観賞価値の高い雌木です。

スモークツリーはウルシ科なの



で、皮膚がかぶれてしまうことがあります。そのため剪定などを行うときは手袋などで肌を保護しておくようにして、切った部分からはヤニが多く出るため、衣服に付着しないように注意してください。

2 植え付け

3月上中旬頃が植え付けの適期となります。深さ30～40cmの耕土を確保し、2～3t/10aのたい肥を投入しておきます。株の間隔は、180～200m×180～200mで、250～300本/10aが目安です。生長が早いので、支柱を立てて風による倒伏を防ぎます。

3 施肥

株元から 30~40 cm くらい離れたところに、有機配合などを元肥として施します。施肥量は、チッ素、リン酸、カリともに成分量で 15Kg/10a くらいとなります。追肥の時期は 4 月と 8~9 月で、成分量で 5Kg/10a 程度を施します。

4 整枝

植え付け時に 1m 程度の高さで芯を止めて主幹を作ります。次に伸びてくる枝の中から 3~4 本を選び、切り戻して主枝にし、さら

に枝を伸ばします。3 年目も枝を切り戻しますが、秋以降に伸びた枝は翌年には開花しないので、7 月以降は細い枝の整理だけにとどめます (図 1)。

5 収穫・調製・出荷

落花後、不稔花の花柄が伸び、全体が羽毛状を呈して煙のようになってきたら収穫です。収穫と同時に水につけ、その後水中で切り戻して 3~4 時間水揚げして出荷します。切り口からヤニが出るため水揚げは良くありません。

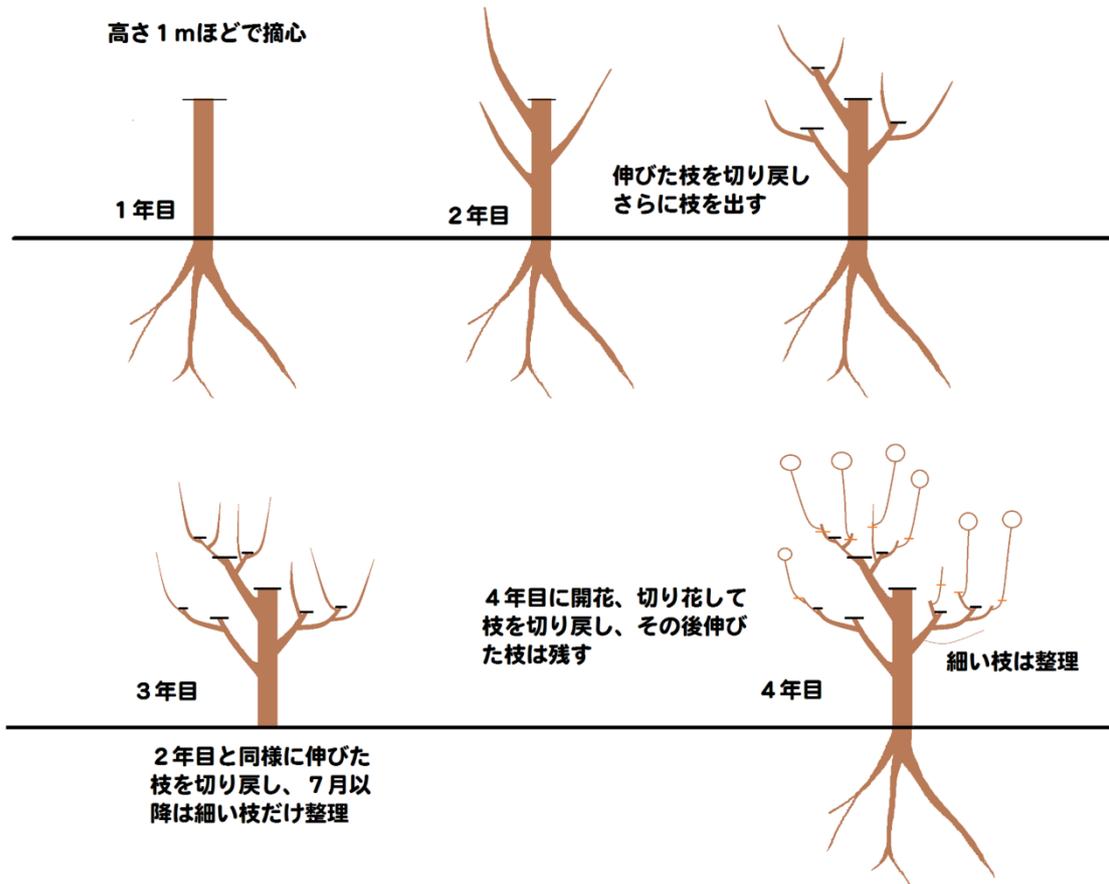


図 1 スモークツリーの仕立て方